

人生ハンド仏句

第58号

H. 19. 1. 1
(毎月1日発行)



十二支のいわれ

住職 谷川寛俊

明けましておめでとご御座います。本年もどうぞ宜敷くお願い申し上げます。

本年は、十二支の順番で申しますと最後の「亥(イノシシ)歳」です。

十二支に動物をはめ込んだものを「十二支獣」という呼び方もあります。架空の動物である竜、あるいは虎や嫌いな人の多いへび(巳)も入っていますが、ほとん

どが身近な動物になっているせいか、本来の意味とは関係ないにもかかわらず、昔から色々な伝説や物語が語られています。

なぜ十二の動物が選ばれ、もっとも人間に身近な動物である猫が入っていないのか不思議ですネ。

それは、昔々のある年の暮れ、神様が動物達におふれを出しました。それは、元旦の朝、新年の挨拶に一番早く来たものから、十二番目まで、順にそれぞれ一年間動物の大将にしてやるつ、というのです。

ところが猫はうっかりその日を忘れ、ネズミさんに聞いたところ、ネズミはわざと一日あとの二日だと教ええました。しかもずるいネズミは、牛さんは歩くのが遅いからと暗い内に早目に出かけた牛の背中にちゃっかり乗って神様の御殿まで便乗しました。そして牛さんが、自分が一番乗りだと喜んだとたん、すばやく飛

編集・発行
玉蓮山 真成 寺
編集部
TEL・FAX (0765)22-2268
メールアドレス
kokorochanthk@ybb.ne.jp
ホームページアドレス
<http://www.geocities.jp/sinijoujitoyama108/>

び降りネズミは一番に、牛は2番目になったのです。又、元旦にすっかり寝坊した猫が二日の朝出かけると、門番に「何を寝ぼけているんだ、顔を洗って来い。」と追い返され、十二支に入ってもらえませんか。ネズミにだまされた事をうらみに思っ、それから猫はネズミを追い回すようになったとか。というのが全国いたるところにある物語で、更に「顔を洗って来い」といわれた猫は、それからしょっちゅう顔を洗うようになったとか。

又、猫がお釈迦様の用事で薬を取りに入ったネズミをつかまえて食べてしまった為、お釈迦様の怒りに触れて十二支に入れてもらえなかったという説もあります。

又、仲の悪い猿と犬が順番を争って喧嘩になりそうだったから間に二ワトリが入ったという説、十番目の鶏の後が途切れたので、神様が「十

二番までと考えたが、十番目までいいだろう。」と門を閉めたのに、遅れた猪(いのしし)が猛スピードで突進してきて体当たりして門に穴を開けた。そこへ競争しながら飛んできた犬が素早くもぐり込んだ。あきれた神様が「それなら両方とも入れてやるつ」とめでたく仲間に入れてもらったとか。色々な物語が作られています。二十一世紀の現在も新しい十二支物語りが作られているようですので想像力の豊かな方は自分で考えては、如何でしょう。

